

看護師の病院内での地位向上を目指して



琉球大学医学部附属病院 病院長 藤田次郎

いよいよ琉球大学医学部附属病院においても、特定行為に係る看護師の研修制度が開始します。この制度はすでに米国ではナース・プラクティショナー（Nurse Practitioner, NP）として位置づけられています。NPとは、主にアメリカ合衆国において制度化されている上級の看護師で一定のレベルの診断や治療などを行うことが許されています。

2017年11月に病院長室を訪問していただいた、在沖米国海軍病院の司令官/院長であるシンディーキーナー大佐はNPでした。彼女はすでに修士は持っており、さらに博士を取得するために勉強中とのことでした。米国ではNPが海軍病院の司令官/院長として活躍していることから、わが国においても特定行為のできる看護師を育成することは、看護師の社会的地位の向上に繋がるものと確信しています。

琉球大学医学部附属病院では、当年は限定的な特定行為からのスタートではありますが、病院全体で協力体制を構築することで優れた研修制度を確立したいと思っています。また、将来的にはより多くの特定行為の研修体制を整備したいと考えています。

求められる特定行為ができる看護師像を実現します



看護師特定行為研修管理委員長 大屋祐輔

看護師の特定行為に関するプログラムを実施させていただきます。ただ、行為ができるだけでなく、適切に状況を把握・分析し、必要な行為を医師と連携して実施できる看護師の育成を目指したいと思います。琉球大学医学部附属病院は、沖縄唯一の医育育成機関である琉球大学の附属病院として有する教育のノウハウを生かし、また、シミュレーションセンターを有効活用した効率のよい、また、受講者の皆様にとって履修しやすいカリキュラムを作っております。ぜひ、このプログラムに参加いただき、沖縄の医療の未来のためにぜひ一緒に取り組んでみませんか。

臨床実践力の高いジェネラリスト看護師の育成



看護部長 大嶺千代美

離島の多い沖縄県では、急性期医療から在宅医療において看護師の役割拡大と活躍が期待されています。医教育機関としての当院の特定行為研修では、医学的根拠に基づいた臨床推論やフィジカルアセスメント等を学ぶことができます。看護の視点に加え、医療の視点で患者の状態を理解し、専門的な知識と技能を身に着けることで患者・家族に必要な医療・看護をタイムリーに提供することが可能となります。

今後、益々高度化複雑化する医療を支え、生活者である患者の状態を見極める力を持つ実践力の高い看護師が一人でも多く育つことを期待しています。